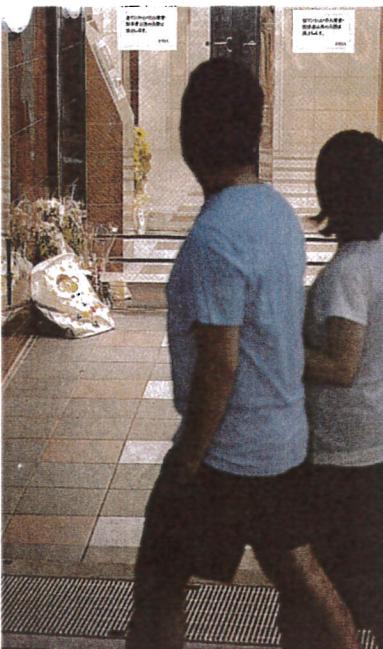


隣人への被害意識 背景か



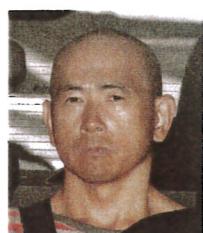
事件があったマンションの入り口には花が供えられていた=1日、大阪府豊中市服部西町、畠宗太郎撮影

豊中・女性刺殺事件 1週間

大阪府豊中市の自宅マーチャンの6階廊下で長男(1)を連れた瀧島裕美さん(33)が刺殺された事件から3日で1週間。府警は同じ6階に住む無職上原亮宏容疑者(53)=殺人容疑で送検=が住人への被害意識を一方的に募らせていたとの見方を強めている。

「6階住人が全員グルになつて自分をストーカーしたり監視したりしている。我慢の限界だった」

捜査関係者によると上原容疑者は逮捕後じつ語ったと。自室玄関内にはカメラが設置され、別室のモニターで見られるようになっていた。捜査幹部は「目的がよくわからないが、必要以上に周囲に警戒心を持



上原亮宏容疑者

つていたのではないか」と話す。上原容疑者が話す「監視」などの事実は確認できぬといひ。

捜査関係者や複数の住民によると、上原容疑者は

約40年前、両親と姉との4人で、豊中市に隣接する兵庫県伊丹市の新築の一軒家に九州から転居してきた。福岡県の工業大学に進学

容疑者「全員がストーカー！」

した後、伊丹の家に戻り、10年以上前には周囲に「設計事務所で働いている」と話していたといふ。数年前は「自宅でパソコンでデーター関係の仕事をしている」と話していたといふ。父は約20年前に他界し、姉は結婚して実家を離れた。母が10年以上前に亡くな

った。一方、別の女性は「数年前は「近所付き合いはなかった。「近所付き合いは少なかつたが、会えばあいさつをしてくれた」と話す

住民もいる。一方、別の女性は「数年前にこの家を県内の不動産会社に売却。前後にマンションに入居していた」とみられる。大阪地検は上原容疑者の刑事責任能力の有無や程度を調べる方針だ。

■近隣住民が逮捕された主な事件(年齢や供述はいずれも当時)

| 発生年月 | 発生場所 | 容疑者 | 事件の概要 | 容疑者の供述など |
|---------|--------------|-------|-------------------|----------------------------------|
| 2013年7月 | 山口県周南市の集落 | 60代の男 | 同じ集落の5人を殺害し家2軒に放火 | 「悪いわざを流されて頭にきた」 |
| 14年9月 | 神戸市須磨区の県営住宅 | 50代の男 | 上階の男性を殺害 | 「騒音に腹を立てていた」 |
| 15年2月 | 和歌山県紀の川市の住宅街 | 20代の男 | 近所の小5男児を殺害 | 「からかわれたと感じた」 |
| 3月 | 兵庫県洲本市の集落 | 40代の男 | 自宅近くの住民5人を殺害 | 容疑者がツイッターで被害者を名指しで中傷 |
| 4月 | 堺市東区の住宅街 | 80代の男 | 隣家の女性を殺害 | 「以前から家を揺らして耳鳴り壁をたたかれたり鳴りがひどくなつた」 |

トラブル「まず家主らに相談」

被害感情を募らせた近隣住民が逮捕される事件は過去にも起きている。事態が深刻化するのを防ぐ手はあるか。

マンショントラブルに詳しい小川敦司弁護士(横浜弁護士会)は「小さいながら」と感じても当事者だけで解決しきれないとせず、家主や管理人らに相談するのがいい」と話す。他の入居者から同様の相談が寄せられている場合、対応方法を一緒に考えられるためだ。

「苦情社会の騒音トラブル学」(新曜社)の著書がある八戸工業大学の橋本典久教授は「最初から警察などに通報すると逆上される可能性が高い」と指摘。相手が敵意を募らせる前に、①相手がどんな人なのか、家主や管理人の住民らから情報収集する②同時に、裏子折りを届けるなど相手に敵意がないことを示す——などが大切だと話す。それでも関係が悪化し、相手に攻撃性を強く感じたら、一時的に自宅を離れる」とも検討すべきだといふ。